

家族の語り場〔かわら版〕

ご挨拶

皆さま、ご健勝でございましょうか。家族の語り場〔かわら版〕では、病院内スタッフが、ご家族向けの情報を配信しております。今回は、「社会資源について」「持続注射治療について」「精神科訪問看護について」をご紹介します。そして、このかわら版は、今回が最終号となります。2021年度からご愛読していただいた方、心から感謝いたします。ありがとうございました!

親亡き後、本人が一人で暮らしていけるか心配 入所施設やそれ以外の社会資源を知りたい!

〔医療福祉相談室〕

暮らしを支える支援としては、住まいを提供するグループホームなどの入所施設があります。また居宅においては、自立した生活が送れるように調理や掃除、金銭管理等の訓練を行う自立訓練施設（宿泊型・通所型）があります。その他にも、生活全般に関わる援助（家事全般の相談、助言も含む）を行うホームヘルプや、訪問看護など訪問型の支援などもあります。

実際にどのようなサービスをご利用されるかは、ご本人がどのような生活を送りたいか、ご希望をお聞きしながら勧めていくことになります。

医療福祉相談室では、福祉サービスや福祉制度について、ご本人のご希望や現在の状況などお聞きし、今ある社会資源についてご説明しております。来所していただく他、電話でのご相談も可能です。入院中の方に関しては、担当のPSWが対応させていただきます。お気軽にご相談ください。

飲み薬でなく注射による治療について

〔外来看護師〕

統合失調症のお薬には、飲み薬・注射剤・貼り薬があります。今回は注射剤についてご紹介します。当院の持続性注射使用者は、2021年度で205名、そのうち22名が新規で利用し始めました（全体の約10%）。2~4週間毎で1回の注射、最近では3ヶ月毎も発売されました。

〈患者様のお声から……〉

実際、注射剤を使用されている方からは「もっと、痛いと思った」「飲み薬のように忘れないからありがたい」「会社で薬を飲むところを見られなくて安心」などのお声があります。薬の飲み忘れがある方はお勧めです。

注射の種類によっては、お尻のみでなく、腕に注射できる薬剤もあります。ご家族も“薬、ちゃんと飲んでいるかしら?”と、心配は無くなりますし、外出時の飲み薬を持参する必要もありません。

〈導入方法については……〉

飲み薬から注射への切り替えは、処方薬の組み合わせや種類によって対象にならない方もいますので、一度主治医へご相談ください。また、外来看護師から医師へ伝えることは可能です。まずは、持続性注射薬による治療を知っていただければ幸いです。

精神科の訪問看護って何をしてくれるの?

〔訪問看護ステーションより〕

訪問看護と言われると、“身体のケア・お世話をしてくれるところ”と想像しやすいかもしれませんが、では、精神科の訪問看護は何をしてくれるところなの?と思われる方、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

訪問看護はご自宅に伺い、病状や生活、服薬などに関して支援に入ります。親しい方がそばにいても病気の部分は言えずに、ご本人やご家族が抱え込んでしまうことが多く、生活に疲れてしまうこともあります。訪問を受けていても、なかなか目に見えた変化がなく、実感も湧きにくい、ご家族から見るとお話しているだけのように見えるかもしれません。しかし、訪問していると部屋の雰囲気（生活）、話し方や内容（症状）なども含めて変化に気づくことはたくさんあります。身体の状態だけでなく、心の調子を崩す前にご本人が対処できるようその人らしい生活を見守ります。

訪問を受ける上で、ご自宅へ伺うことに抵抗がある方もみえるかもしれません。普段の住み慣れた環境の方がリラックスして話しやすく、実際困っていることがはっきりして、他の支援に繋がるきっかけにもなります。

訪問看護が『よき話し相手』や『次のステップアップ』、『支援のパイプ役』として関わっていますので、訪問看護利用のご相談については、お気軽にご連絡ください! ☎ 059-348-5511

